



○「失敗は成功の元」

I've missed more than 9,000 shots in my career. I've lost almost 300 games. Twenty-six times, I've been trusted to take the game winning shot and missed. I've failed over and over and over again in my life. And that is why I succeed.



「私はキャリアを通じて 9000 回以上シュートを外し、300 試合に敗れ、決勝シュートを任されて 26 回も外しています。人生で何度も何度も失敗したからこそ、今の成功がある。」・・・NBA のスーパースター、マイケル・ジョーダンの言葉です。

「失敗は成功の元」のように、類似の名言やことわざはたくさんあります。それだけ成長するためには、あるいは成功するためには、失敗を成長や成功の糧とできるか、また意欲や挑戦、工夫や改善につなげていけるかどうかが大変なことなのでしょう。

ケンタッキーフライドチキンを売り込んだが 1009 回断られたというカーネル・サンダースも「失敗とは、再始動したり、新しいことを試したりするために与えられたチャンスだ。私はそう信じている」と言っています。

「弘法も筆の誤り」ということわざがあります。「猿も木から落ちる」のように動物の例はありますが、失敗に関連することわざに偉人が入っていることはめずらしいのではないのでしょうか。完璧だと思える人でも失敗するということから伝えたかったことは何なのでしょう。ちなみに「弘法筆を選ばず」ということわざもあります。成功する人は道具を選ばないというのが直訳でしょうが、イチローなどはとても道具にこだわり大事にします。アスリートはみなそうです。言えるのは、失敗したことを道具のせいにはしないということでしょう。

失敗を糧に変えていくことは個人の気持ちの在り方しだいとしても、今の社会では、過ちや誤りをSNSなどにより徹底的にたたき風潮があることは残念です。そうしたことが、何もしない、挑戦をしない、目立たないようにするような風潮につながってははいけません。

バスケットの3ポイントシュートの決定率は、Bリーグのトップ選手でも約 40%です。半分以上はずしていることとなります。失敗を恐れてスリーポイントを打たなかったら、勝負どころで躊躇したらどうなるのでしょうか。一方、果敢に攻めて失敗した選手を仲間や観客がブーイングなどで責め立てたらどうなるのでしょうか。

失敗を成長や成功への糧に変え、その糧をもって次なる挑戦をしていく。その後押しをするのが仲間や周囲であるべきです。生徒のみなさんには「安心して失敗できる学校、クラス」の中で、失敗を糧に挑戦しながら成長していってほしいと思っています。